

－ 日本タウン誌・フリーペーパー大賞2017－ 大風印刷様(やまがたマーチング委員会)

全エントリー媒体の中から最も優れた媒体に与えられる大賞に、
大風印刷様が発行する「gatta!」が見事に受賞！

大賞





大賞



媒体コンセプト

生まれ育った街を、素直に好きって言える。

これって、素敵なことだと思いませんか？

ここ山形には、全国的かつ世界的に見て決してひけをとらない、稀有な文化や素晴らしい風土、類い稀なる才能を持った人物が数多く存在します。

しかし、実際ここで生活している方の多数はそのような優れた面を知らず、或いは知ろうとせず「山形＝田舎＝格好悪い」という短絡的な先入観から、山形という土地に対して否定的な見識を持っているという事実があることは否めません。誇りながらも消え去ろうとしている山形の文化や伝統を積極的に取り上げていくことはもちろん、普段の生活が大幅に変貌しないまでも、ほんの少し個々の山形を想う気持ちが変わり、もっとこの街が住みやすい場所となるため、親から子へ正しいことを伝えるために、そして何よりも“自分の故郷を誇りに思える”気持ちを育てることが「gatta!」最大のテーマです。

審査コメント

大きなスイカを美味しそうに頬張る2人の子ども。

夏らしくてインパクトのあるかわいい表紙に、審査員一同思わずニマリ。

「生まれた街を、素直に好きと言える。とても素敵なことだと思いませんか？」という編集コンセプトで13年前に創刊された。

この編集部からのメッセージ通り、地域の様々な魅力を、企画、写真、文章、デザイン等、高いクオリティで編集してある点が高く評価されての受賞。

この街に住んでいる読者にとっては、「わが街再発見」のきっかけとなり、観光客にとっては、ディープな観光情報満載の雑誌となっている。

誌面からWEBに動線はあるが、PDFになっており、知りたい情報が検索できないのが非常に残念な点である。13年分の「gatta!」を再編集すれば、山形の新しい魅力再発見のコンテンツになるだろうと思われる。



大賞

大地の多様性を感じさせる
海岸特有の岩や地層。

南北の植物が混生する
島特有の豊かな自然。

日本海に浮かぶ不思議なアイランド、飛鳥島。酒田港から北西へ30キロメートル、日本海に浮かぶ山形県唯一の離島、飛鳥島は、甲斐海岸山の自然と、昔ながらの島の暮らしの雰囲気がつまった小さな島だ。標高40メートルのテンプル状の地形で、南北の道路距離が約4キロメートル。散策やサイクリングをするには丁度良い広さだ。

島に書いて最初に出会う、独特の景観とその美しさ。飛鳥島は、日本海を南北に連なる海道山脈の頂上と相当する。海火山から突き出した噴出物が海底に積み重なり、斜り上がりながら波や風雨に削られて現在の姿となった。そのため、多様な地形が入り組んでおり、少し歩いただけで岩場や海岸線などの景観がガラリと変わる。また、北緯39度という高緯度に位置しながら、暖流・対馬海流の影響を受けているため、年間平均気温は12度と暖かく、南と北の動植物が混生

する特徴的な生態系を築いている。その豊かな自然を口で言い、ウミネコが繁殖地に集り、飛鳥島が羽を休めに立ち止まり、多くの太公望が訪れる絶好の釣りスポットにもなっている。

生活文化ととも、醸成されてきた島の歴史。島には縄文時代前期からの遺跡が存在し、江戸時代には北前船の西回り経路として、瀬戸内海や瀬戸内海と利用され、海上交通による文化の中継点として重要な役割を果たした。そうして海を生業とする人々によつて培われた島の



WHAT'S "TOOTSUIMA"

「飛鳥」は山形熱沖の日本海に浮かぶ島

総面積は東京23区に
対して約2.75倍。島
道は10.2kmで、徒歩
約2時間10分を要す
島では、飛鳥に付いた
唯一の交通機関で
ある定期船「たけしま」
は、酒田～飛鳥間
約75分で結ぶ。

2.75
km²

39
km

島戸崎漁業センター。島海山方面を眺め、島の南には対馬海流の影響で、南北の海とは異なる4℃程度の温度差があり、魚雲がサンゴ礁層を泳ぐ。コブダイやメジロなどの魚類の集まる宝庫。また、初夏にかけて漁船に釣れるチヂメの群れも観望でき、ダイバー達から人気を博している。

ふしぎの島、飛鳥。

昨年、島海山飛鳥ジオパークとして日本ジオパークに認定された。今後さらなる展開が期待される飛鳥。「学び」の視点から、その魅力に迫ります。

ABOUT "TOOTSUIMA"

漁業が盛んで釣り客も多い山形県唯一の有人島

島の人口は、2016年（2017年9月30日現在）、人口減少や高齢化は顕在化しているが、島の面積5.1km²に約45人と希少な島民が暮らしている。約45名が約100戸がここに暮らす。新たな住民も入居している。

208

生活文化もまた、島の異所性。海の幸が豊富に獲れる「山形県産代表する純漁村」といわれた島には三つの集落があり、港のある藤浦地区から中村地区を挟んで淡水地区まで、一本の道が続いている。家々はその道に沿って海に面して建ち並んでおり、晴れた日には島海山を臨める。飛鳥は島海山の山頂が飛んでできたという伝説もあるが、古より島の小笠原神社と島海山頂の大物忌神社で火合わせの神事（両社で篝火を



飛鳥の南側海岸には人と人が岩場で、海を望み眺め、マンネス岩やローソク岩などの奇岩を並べしめる。

築き、豊漁豊作を祈願する神事」が行われてきたように、信望の対面としても島海山の存在は常にあった。このように、大抵の島を保護しながら自然に任せることができ、そこに住む人々の生活や文化をこの深い関わり合いも、丸ごと楽しむことができる。それがジオパークの魅力であり、飛鳥がその認定を受けた理由でもある。



島の周囲には、海に変わってできた海岸岩や海岸段丘の広がり、古い地層や断層が見られる場所もある。

思慮のない？と思われ方もないかも知れない。これらも思い不思議とは、多様性という概念に置き換えることができれば、多様な現象が生み出される。多様性のためには、それが現象そのもの、今日はその現象が内包する様々なストーリーを見ている。少しして興味が生じたなら、ぜひ足を運んでみていただきたい。きっと新たな発見が、あなたを魅了してくれるはずだ。



島の周囲には、特徴ある形をした岩や、大小の小島が点在し、多くの景観が楽しめる。

海に生きる人々によって
培われてきた歴史と文化。

WHAT'S "GEOPARK"

飛鳥も認定された「ジオパーク」とは

「地球一大陸（ジオ）」と「人類（パーク）」とを結び合わせた言葉で、「大地の芸術」を意味する。地球を学び、そこを愛することができるといふこと。

